

# 令和5年度 文京区障害者地域自立支援協議会

## 第3回 就労支援専門部会 要点記録

日時 令和6年2月20日(火)10:00~12:00  
場所 文京区シビックセンター 障害者会館会議室 A・B 会議室  
出席者 志村健一 協議会副会長・瀬川聖美 部会長・市川 礼雄 副部会長、藤枝洋介 委員・阿部優美 委員、小野寺肇 委員・小泉洋平 委員・池田直矢 委員・阿部 光実 委員・渋谷尚希 区委員  
(ゲスト委員)松下功一委員  
欠席者 山口 裕紀子 委員・野村 育代 委員・平井芙美 委員・小林美千代 委員・中瀬 茂由 委員  
有村 秀一 委員・天野 亨 委員・鶴田 秀昭 委員・小谷野 恵美 区委員

### <会議次第>

#### 1 開会

#### 2 議事

(1) 文京区障害者地域自立支援協議会 全体会について

【資料第2-1号、資料第2-2号】

(2) 第20回共生のための文京地域支援フォーラムについて

【資料3号】

(3) 意見交換

各事業所における現状と課題について

#### 3 閉会

### <配布資料>

- ・令和5年度第3回文京区障害者就労支援専門部会名簿……………【資料第1号】
- ・文京区障害者地域自立支援協議会 全体会のご案内……………【資料第2-1号】
- ・就労支援専門部会 全体会資料……………【資料第2-2号】
- ・第20回 共生のための文京地域支援フォーラム 企画(案)……………【資料第3号】

## 【開会】

- ・事務局より、欠席者の報告及び、当日資料の確認。
- ・部会当日は、欠席であったが、第3回の部会より、ジョブリッジ飯田橋の委員が変更になり、共有する。

## 【議事】

### (1) 文京区障害者地域自立支援協議会 全体会について

#### 【資料2-1号～資料2-2号】

- ・資料について、事務局より説明。

(各委員より)

- ・ハンドブックの作成については大変であった。
- ・超短時間雇用については、情報収集を行っている状況である。
- ・B型利用の方について、短時間での就労にて少しお金が入ることで、B型利用に影響が出るのが不安である。区が状況を見ながら対応している。
- ・4月に法改定があり、平均工賃1万円いくいかないかで課題になってくる。1万円を切ると赤字になってしまう。施設としては、経営が厳しくなってくる。B型から、短時間への就労は難しい状況である。

### (2) 第20回共生のための文京地域支援フォーラムについて

#### 【資料3号】

- ・資料について、事務局より説明。
- ・前回の部会で、ご意見でも出ていた、「身近な・・・」ということをキーワードとした。
- ・文京区内での企業又は、文京区民である就労者を対象と考えている。
- ・A型やB型にて働いている方、企業で働いている方と、2本立てでできると良いか。

(各委員より)

- ・開催時間については、午前か午後かで考えている。
- ・今年度で開催した「地域支援フォーラム」については、2時間から2時間半で実施した。そのぐらいの時間が丁度良いと思う。
- ・ハートフル工房とのからみについては、販売の繁忙時間にかぶらないようにしていく(午後の2時間程度が良いか)。販売が落ち着く、13時頃からのスタートが良いか。
- ・フォーラムのチラシに、ハートフル工房販売会のことを入れつつ「一緒に開催」という感じで考える。
- ・資料の03「従業員(当事者)+上司+支援者」の組み合わせについて、区民であれば対象OKとしていく考えであるか？
- ➡対象を絞り過ぎも良くないか。就労者は区民であるが、企業は区外になるケースで、登壇をお願いしたこともあった(事業所内での発表会)。
- ・雇用する側が「一緒に働く」ということのメリット、プラスになっていることを話してもらうと良い。
- ・区内の企業でも、障害者雇用している企業が30社から40社ある(クローズでの就労者もいる)。
- ・フォーラムに登壇されなくても、企業側が作成した「ポスター」を掲示するコーナーがあっても良い。企業を

紹介する場としても有効ではないか。

- ・作成するポスターについては、企業に任せていく。企業紹介のみならず、来場する方に役立つ情報も入ると良い。
- ・作成するポスターを企業任せにしてしまうと、依頼する際に難しくなってくる。フォーマットを作成して依頼していくと、依頼する側も説明しやすくなる。内容には、仕事内容や雇用している点など入れ込むと良い。
- ・HW（雇用率の観点）より、未達成企業へのアプローチもしやすくなる。
- ・企業の方には聞いて頂いて良い。今後の雇用率につながっていければ良い（企業は聴きたがっている。参考になると良い）。
- ・映像を使うことに関して、流し方は「ずっと流している」、「時間を決めて流す」と、どのように想定しているか？
- ➡登壇して頂く企業の方に協力してもらい、10～15分ぐらいの、紹介動画であればイメージしやすいと思われる。
- ・B型に限らず、「生活介護も働ける」という考えもある。
- ・動画（スライドショー）を作成して流していく（事業所・企業）。映像を観て、映像に対して説明していく流れも良い（幅広く事業所を知ってもらう）。
- ・ハンドブックに掲載されている事業所が対象で良い。
- ・デイケアについては、対象者が映らなければ、動画の作成は良い。対象者がNGであれば、スタッフのみで映していく。
- ・学校でも使える映像であれば、学校内で進路の選択につながる、活用できると思う。
- ・映像制作段階では、「YouTubeでも流す」というところまで了承してもらう。
- ・職場の紹介動画を作った。プロの方に撮ってもらうと素敵な映像が作成出来ていた。しかし、費用は結構かかってしまう。
- ・B型が対象になる場合、B型のみ利用者か、短時間雇用を行っている方が対象になるのか？
- ➡B型で生き生きと働いている方が対象であれば良いか。
- ・B型（福作）からの就労も、「厳しい」と聞いている。事業所で活躍している姿を映像で撮る。事業所紹介でも良いと思われる。
- ・今回のフォーラムを聴いて、文京区内の企業が雇用率を達成してもらえると良い。
- ・zoomで企業の説明会に参加する機会があった。実際に仕事を行っていること（Excelでの対応等）を、その場で仕事が行える（体験できる）という場があると良い。体験することで、イメージできると思われる。
- ・2月1日に東京ビックサイトで開催されていた、マッチングフェスタでは、実際に体験できる場もあり、支援学校の生徒も「発表の場（知ってもらえる場）」として良かった。生徒も生き生きしていた。
- ・色々確認したいことに対して、回答する総合窓口があると良いか。
- ・B型については、「受注できます」等として、受注窓口のようなものがあると良いか。
- ・当事者が働いている姿、本人の力、支援者の力、それぞれがセットで考えていく。
- ・「一般就労、A型、B型での就労について、自立に向けての仕事に付けている人」、「福祉的就労から一般就労した方で、どのようなサポートがあって進めたか」、「公費が対象になっていた方が、本人が自活して得た収入で生活している事例」等。
- ・チラシの作成を考えると、5月頃からスタートしていく。9月にはポスターやチラシが完成しておければ良い。

- ・企業に勤めている人が参加する場合は、有給休暇を取ってくる。「仕事で参加して OK」となる可能性もあるが、共生フォーラムとしては、登壇者に対して「謝金」があると良いのではないかと。
- ➡予算の関係上、「社会貢献」として参加してもらえると良い。
- ・会社によっては、出席（参加）する対応が様々である。
- ・事務局と部会長、副部会長、フォーラムより参加のゲスト委員で検討していく。
- ・最終的な開催に向けての進め方は、部会で提案し、フォーラム事務局で承認していく流れになるか。
- ・9月中旬までに決まっていると良い（9月中旬は確認程度）。8月までには内容を確定しておく。
- ・作成等、動き出すスタート時期は、5月のGW明けぐらいから行うと良いか。

### (3) 意見交換

- ・40名～45名がプログラム参加。復職や再就職に向けた人たちが来ている。在籍期間は半年ぐらいになる。半年ぐらいで復職や再就職している。就労移行にもつながっている。ビジネスマナーや社会性等の習得は、週2～3で就労移行にて勉強してもらっている（連携）。都内には、株式系の自立訓練や就労移行の事業所も増えている。そのことで、選択の幅は広がっている。自分たちの事業所の良さをどう作っていくか、アピールしていくかが課題である。
- ・精神科のデイになる。35名ぐらいの登録となっている。年齢制限はないが、平均は20代中ごろであり、どんどん若い人が利用している。10代後半から20代が通えるデイケアが少ないか。半年ぐらい利用を待ってもらっている。他に紹介先があると良い。就労支援だけでなく、就学支援のニーズも増えて来ている。HWとの協力で就労につながるが、定着支援部分でなかなかつながらない課題がある。
- ・在校の3年生59名の進路は、「就労21名、B型13名、生活介護17名、その他8名」である。中学校時代に特別支援級に通っていた生徒は、支援学校に進級するが、普通高校に通う学生も多くなっている。普通科では清掃や調理など現場での仕事が多い。B型の利用についても、対象者同士のトラブル、人間関係で、生活介護に進む生徒もいる。
- ・794名の登録者（精神障害者460名）。年間60名～70名の登録者である。大学生の相談はあったが、一般高校からの相談もある。アプローチの仕方が難しい。「1日8時間で働きたい」との相談。超短時間雇用について、なかなかうまく進んでいないのが現状である。超短時間雇用について、商業としての課題があり、地域の仕組みとして考えていく必要がある。
- ・36名の精神障害の方が利用。内職の作業が主である。DM作業が多い（机上作業）。一般就労について、「生活リズムを整える訓練」で目指してもいる。「年金と生活保護で生活していきたい」というケースもいる。工賃の制度が来年度から変わる。工賃で生活できる状況が厳しくなる。工賃アップについて「受注先の開拓、単価アップの交渉」が考えられる（ポスティング）。アルバイトを探していく。
- ・職業評価の担当になる。1回12名で説明会を開催している。高次脳機能障害の相談が多くなっている。60代以上の人も相談あり、復職に向けてのブラッシュアップで来る方も多し。地域の支援機関への支援として「ケースカンファレンス」の場を設定している。申込みがあまりないのが現状。どのように周知していくか課題である。
- ・福祉的就労という観点では、特別支援学校からの受け入れ先が課題である。医療的ケアが必要な生徒が増えてきている。今まで受け入れていた事業所もキャパの問題で他の事業所を考えないといけな。B型については、利用者及び保護者の高齢化の問題がある。家庭支援や医療支援の相談も受けている。GHにつ

いての相談もしていくが厳しい状況である。超短時間雇用についての検討、就労選択支援についての整備も必要になってくる。

・2月7日に「雇用促進セミナー」を開催した。利用者、企業、TOSCA 支援者に登壇して頂き、トークセッションを行った。

求職者支援は熱心に行う。会社をしっかりと見ていく（見極めていく視点）を、持っていくことが必要である。

・株式会社の就労移行が増えてきた。大手にはかなわないが、昔から行っている「丁寧さ」を持って行えれば良いかと考えている。B型でも株式会社の経営が増えてきているのも現状である。

・部会を通して、色々な話をしてくて、「やらなくてはならないことが多い」と感じている。「人が足りない」となっているが、マッチングをしっかりとしなくてはならない。地域支援フォーラムにてアピールしていければと思う。

・「全く働いてこなかった」、「働けると思っていなかった」という人が、OriHime（ロボット）を使いながら働けるようになってきた。フォーラムでは OriHime（ロボット）も持っていけるか。

## 【閉会】